



# だより

— つながれ ひろがれ —

Vol. 110

編集 環境パートナーシップちば  
代表 桑波田 和子  
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1  
(一財)千葉県環境財団業務部  
環境活動支援課気付  
電話 043-246-2180  
FAX 043-246-6969

## 表彰されました！ 「平成28年度環境保全功労者等環境大臣表彰」

環境パートナーシップちば 代表 桑波田和子

平成28年6月8日(水)グランドアーク半蔵門で、「環境保全功労者等環境大臣表彰式」が行われ、環境パートナーシップちばも表彰されました。

なんと素敵な表彰を頂くことができました。

この表彰について、環境省のHPには、「環境保全、地域環境保全及び地域環境美化に関し、顕著な功績があった者(または団体)に対して、その功績をたたえるため、毎年度、環境大臣による表彰を行っています。また、環境対策に係る模範的取組表彰を併せて行います。」とあります。

当会の功績概要は「設立当初から環境啓発イベントへ積極的に参画し、市民・企業・行政等との良好なパートナーシップにより、地域の環境保全に多大な貢献をしている。」と紹介されています。

千葉県では、当会以外に「佐倉里山クラブ」。地域環境美化功績者表彰に、「メイク松戸ビューティフル」「大堀川の水辺をきれいにする会」も表彰されました。千葉県環境政策課は随行として表彰式に参席されました。

大臣表彰を頂けることは、想定外でしたので、表彰の経緯などについて調べてみると環境省のHPに、以下のように記載されていました。

(環境保全功労者等表彰制度設立の経緯)

- ・昭和47年6月、ストックホルムにおいて国連人間環境会議が開催され、我が国の提唱により国連で6月5日を「世界環境デー」と設定。
- ・昭和48年度から6月5日を初日とする1週間を「環境週間」とし、平成3年度からは従来の週間の幅を拡大して、6月の1か月間を「環境月間」として全国的な普及啓発活動を展開。
- ・昭和51年度に「環境週間」行事の一環として、「環境保全功労者表彰」の制度を創設(環境庁局部長推薦)。
- ・昭和54年度に「地域環境美化功績者表彰」(都道府県知事、政令指定都市市長推薦)を、昭和56年度に「地域環境保全功労者表彰」(都道府県知事、政令指定都市市長推薦)を創設。

(環境対策に係る模範的取組表彰制度設立経緯)

・平成22年1月29日付け中央環境審議会答申「今後の効果的な公害防止の取組促進方策の在り方について」における議論を踏まえ、先進的な事業活動や対策技術等を取り入れた事業者等に対する環境大臣表彰として、平成23年度に創設。

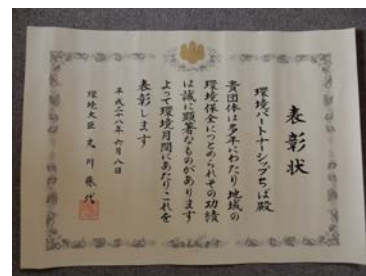
ということで、昭和56年度から、毎年表彰が行われていた歴史ある表彰ということが分かりました。

このような表彰をいただけたのも、これまで支えていただいた先輩、また現在と一緒に歩いていただいている会員の皆さまのご協力の賜物と改めて感謝いたします。

環境パートナーシップちばは平成9年に設立され、20年近くなります。今年の総会ではNPO法人格取得検討委員会の設立も承認されました。これまでの活動をふりかえると同時に感謝して、今後、環境保全活動の中間支援団体として、責任ある行動とパートナーシップを推し進めていく所存です。

このような節目のある年に大臣表彰を頂き、今後の活動への励みとなりました。

今後ともご支援ご協力、よろしく願い申し上げます。



## 平成28年度ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦(第2回)報告記

今年度第1回目のナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦は、5月29日にIVUSA(国際ボランティア学生協会)の若者たち大勢の参加を得て行われました(環パだより第109号(2016年5月発行)をご覧ください)。

それから約1か月半後の7月12日に、その後の継続駆除をするために第2回協働駆除作戦が開催されました。今回は重機の出勤はなく、参加人数も30数名で、比較的地味な作業だったのですが、参加者は岸の両側、すなわち水中からと陸上から手作業で、1本1本ナガエを抜き取っていました。大きな群落はだいぶ片付いたものの、前回以降に伸びてきた新芽も多く、抜いても抜いても全然減らないという感じでした。

当日はうす曇りで「酷暑」までにはならない程度の暑さでしたが、午前中の約2時間半の作業を終わってみると、着ているものがぐっしょり濡れるくらいの汗をかきました。

30名の「汗の結晶」であるこの日の成果は土嚢108袋、重量にして450kgでした。前回の11トンというのは後で処分が大変だったので、

このくらいがちょうどいい量かもしれません。土嚢108袋というのは、なかなかのものです。

この継続駆除はまた来月も続きますが、継続駆除とは別に、8月にはIVUSAたちが全国から100名も来てくれて、それも2泊3日かけてみっちり駆除作業をしてくれることになっています。8月18日(木)~20日(土)の3日間で駆除作業の場所は神崎川(印西市側)です。IVUSAさんたちにお任せ、ではなくて、地元の私たちもできる範囲で一緒に汗を流してみませんか。

詳しいスケジュールは、分かり次第お知らせいたします。

(文責 小倉  
久子)



新しく生えてきたナガエツルノゲイトウ

## 28年度千葉県環境講座報告

## “「地球温暖化にどう向き合うのか」パリ協定を読み解く”

平成28年度千葉県環境講座(主催:千葉県、実施:環境パートナーシップちば)が始まりました。今後、各講座の実施報告をさせていただきますが、是非、皆様の受講をお待ちします。

環境講座の皮切りとして7月1日午後、千葉市のQiball(きぼーる)で、国立環境研究所のお二人から地球温暖化対策に向け、そのリスクと市民はどう取り組むのかをお聞きしました。以下報告します。

講演1『地球温暖化に関するリスクの最新の科学的知見』 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 高橋潔 主任研究員

講師が関わったIPCC第5次報告書第2作業部会「影響・適応・脆弱性」報告は、温室効果ガスの濃度と気温上昇予測他のシナリオごとに各種予測と対応策を作成。理工学系だけでなく、人文社会学系の研究者が加わり作成された。排出削減(緩和策)に加え、コメの生産地の北上が知られているように植物季節の変化などを踏まえ温暖化の影響に対する対策(適応策)を取ることが必要。人々の行動、ライフスタイル、文化はエネルギー消費量に大きく影響することを踏まえ、環境省は各人ができることとして「Cool Choice100」を展開している。

講演2『地球温暖化対応の基本的事項とCOP21を受けての政府・企業・市民の施策展開』 国立環境研究所 地球環境研究センター 広兼克憲 企画部主席研究企画主幹

地球は他の惑星にはない「温室効果ガスの服」のお陰で適度な温度に保たれてきたが、近年その服が厚着傾向にある。日本政府は2030年度において2013年度比26.0%減を目標設定し、家庭部門で約40%の削減が必要としている。現在、家庭部門で1日一人当たり約6KgのCO2を排出している。決して簡単ではないが、削減に向け各自が様々な工夫で削減を行う必要がある。

(文責 川島謙治)



## 平成28年度千葉県環境講座報告

## 「サポーター会議@ちば」を実施しました！

今年度、当会が実施団体として受託した千葉県環境講座の一つとして、千葉県のこどもエコクラブが集まる「こども環境会議ちば」があります。今年度は、こどもエコクラブサポーター向けに全国事務局長の川村研治氏を講師にお迎えし、サポーター会議を実施しました。

はじめにアイスブレイクとして「いもむしじゃんけん」からスタート！名物事務局長のダジャレもあって笑顔があふれ、一瞬で和やかムードになりました。

参加者は、クラブ歴の長いベテランから、イオンチアーズクラブや家族クラブ、最近千葉県内でめきめき増えている保育園や幼稚園の先生という豪華なサポーターに加え、浦安市、市川市のコーディネーターが参加。それぞれのクラブの日頃の活動やエコ自慢・エコ悩みを話し合い交流する中で、互いに大きな刺激を受けていたことがアンケート等から分かりました。

また、子育て世代のサポーターさんたちが参加しやすいように、大人が会議している間に子どもプログラムを実施し、6名の子どもたちは、段ボール工作を体験しました。そしてサポーター会議の後半は、子どもたちとの活動に使える「廃食用油

エコキャンドル作り」を色とりどりのエコキャンドルを参加者全員が完成させました。活発な意見交換、体験、わいわい盛り上がった最後に、9月22日のエコメッセ2016inちばで開催する「こども環境会議ちば」の内容を紹介して、ご参加を呼びかけました。

こどもエコクラブは、サポーターさんによって輝き支えられている！そう感じた3時間でした。  
(文責：広田由紀江)



## 平成28年度千葉県環境講座報告

## 「大人の施設見学～産廃ごみを宝にする～」に参加しました

7月13日(水)、石坂産業株式会社(埼玉県入間郡美芳町)を見学するバスツアーに参加しました。「マイナスをプラスにする発想で、産業廃棄物処理の常識を変え、産業廃棄物(建設系廃材リサイクル)を「分別分級の徹底追及」の技術で減量化・再資源化97%を達成し先進的に取り組む企業を見学します。」(講座内容より)のとおり、「常識を変え」「分別分級の徹底追及」をストイックに実行している、という感じを受けました。

江戸時代に畑地を機能的な短冊形に開拓し、上富村、中富村、下富村の3つの村落ができた。この3つの村、三富(さんとめ)の自然、土地、暮らし、歴史と文化を守るべく3世紀に渡る人々の知恵を「聞く、見る、知る、語り合い・触れる」ことは、多世代に渡り絆を深める力となる。「三富今昔村」は「体験ゾーン」「自然・保全ゾーン」「歴史・見処ゾーン」と3つのテーマでリサイクルプラントを囲み、企業理念、最先端の研究開発技術や成果を見学しながら「自然とともに生きる暮らし」を体感できる、総合的で「生活一体型」の施設でした。

「産廃業者」というとどうしても付きまとう不正不法、グレーなイメージを払拭すべしと、建設系廃材のコンクリや木材を分け粉砕するなど、重機を使った作業も屋内で行うという徹底ぶり、防塵、防音設備を充実させ、近隣への影響を押さえている。見学者の視線を従業員の良い緊張感とする、などもこの会社の特徴だそうです。

素材や粒子の大きさなどによって分別された後、ブロック、タイル、埋め戻し材、敷材など土木や建設資材に、また紙用、ボード用、燃料用の原料にもなり、利用し尽くす。見学後、私自身もすっきりとした気分で帰路につきました。

(文責：中村明子)



(写真左：壁面の絵、写真右：木材見本)

## 平成28年度千葉県環境講座 8月～9月間の開催のご案内

主催：千葉県、講座実施団体：環境パートナーシップちばで8月と9月に開催します講座をご案内いたします。夏休み期間は、親子、こどもが体験を通して、環境への気づき、発見、行動へとつながる良いチャンスですので、是非ご参加願います。またお知り合いなどへお伝えいただきますようによろしくお祈りいたします。お申し込みは、<http://kanpachiba.com/> をご覧ください。

### 『夏休み 里山の生き物と合える日』・・・・バスツアー・・・・

天神谷津は、里山の風景が残り、夜にはヘイケボタルが乱舞します。このように自然豊かな場所で、里山で、ザリガニ釣り、生き物探し、湧水探し、竹工作など楽しい体験・発見がたくさんです。

日時：8月19日（金） 8：30～16：00 （集合時間：8：00）

集合・解散場所：千葉駅東口NTTビル前 会場：富里市 天神谷津

講師：特定非営利活動法人 NPO 富里のホタル

対象：千葉県内在住の小学4年生～6年生 定員：40名 参加費：無料

※集合・解散場所までの送り迎えをお願いします。

### 『こども環境会議ちば』

こどもエコクラブで活動する人 集まれ！！

千葉県内の「こどもエコクラブ」の子どもたちの参加体験と交流、活動発表の場です。

日時：9月22日（木・祝） 10：00～14：00

会場：幕張メッセ国際会議場

当日は、エコメッセ2016in ちばを開催しています

講師：関 隆嗣 氏 国際青少年研修協会

対象・定員：千葉県内の「こどもエコクラブ」で活動することも100名。 参加費：無料

### 《講演》環境研究センターの最新の調査・研究の紹介

環境で気になること、知りたいこと、千葉県の環境への研究の取り組みの最新状況について、5名の講師が講演します。講演後は、講演タイトルごとに分かれ、講師への質問など意見交換の場も設けます。

講演タイトル：チバニアンって何？ すごいことなのですね！	講師：風間 修氏
東京湾は、きれいになったの？	講師：飯村 晃氏
PM2.5、やはり気になるその中身と近況	講師：石井 克己氏
ミジンコを使って汚染チェック？	講師：山本 徹氏
放射能！！ちば県てきピフォーアフター	講師：井上 智博氏

日時：8月11日（木・祝） 10：00～12：30

会場：千葉県青少年女性会館 大ホール

千葉市都市モノレール「スポーツセンター駅」下車徒歩4分

講師：千葉県環境研究センター研究員

対象：千葉県在住・在勤・在学の18歳以上の方 定員：100名 参加費：無料

### 《リーダー養成講座》～はじめの一步 この指とまれ～

環境学習・環境保全をすすめるリーダーのための養成講座です。

自然環境保全、ライフスタイル変革、地球温暖化防止、未づくり等をテーマとした環境学習プログラムの企画運営実践スキルなど習得します。

時間：10時～16時 会場：千葉県青少年女性会館

対象：千葉県在住のリーダーとして活動している人、これからリーダーになる人 参加費：無料

開催日：第1回：9月11日（日）第2回：11月5日（土）第3回：11月26日（土）

第4回：12月3日（土）

※講座は単独での参加も可能。但し2回目だけは、プログラムの関係上1回目受講生対象

## 「第19回ふなばし環境フェア」に出展しました

船橋市で毎年開催される「ふなばし環境フェア」に参加しました。このイベントは船橋市環境フェア実行委員会主催、船橋市教育委員会後援で平成28年6月11日（土）10時から16時まで船橋市中央公民館で開催されました。船橋市中央公民館4階から6階と館前広場とを貸切り49団体が参加し、その内訳は市民団体23団体、企業15団体、行政9団体、学校2団体でした。当会は市民団体のブースで環境教育の普及を行い、県として生物多様性センター環境生活部自然保護課が出展されました。

会場内容は、環境全般12団体、自然保護10団体、ゴミ・リサイクル2団体、温暖化防止・エネルギー5団体、生活環境4団体、行政4団体、こどもイベント広場7団体、その他のコーナ4団体、の6分野に分かれてのイベントでした。子供たちで人気があったのは、野山で拾った自然の材料を利用したモノづくり工房でした。

一方、大人の関心が高いと思われるのは、温暖化防止・省エネの取り組みで、7月1日開催された千葉県環境講座「地球温暖化とどう向き合うか」が満員打ち止めの人気があったことを裏付けてい

ました。

事務局発表から来場者は5,100名でした。アンケート集計で「あなたが船橋で残したい自然は何ですか」の回答では1位が三番瀬、2位が海、3位が緑でした。

今回の参加により後世に残して行くものがハッキリ見えてきました。

（文責 斎藤 清）



## 第19回浦安市環境フェア報告

浦安市環境フェアは、6月12日（日）JR新浦安駅前広場を会場にして、「未来を見つめて 今行動しよう」をテーマとして1日を通して開催されました。

今年は、未来のために何ができるか「未来への約束」をチラシの裏面の約束カードに書いて本部に持っていくと、写真のような「ECOCORO バッジ」がもらえる仕組みで、参加者から大変好評のようでした。スタッフも皆「ECOCORO バッジ」をつけていました。



ECOCORO とは、環境を大切にする「ECO」と一人ひとりの「こころ」を組み合わせた市のオリジナルテーマで、バッジにも、環境のために「行動」していく思いが込められているとのこと。

内容は、展示・体験が「いつでもなんでもリサイクル」ブース、「私たちが選ぶエネルギー」ブース、「大切にしたい自然」ブースがありました。出展参加団体は、市民団体、千葉県から燃料電池自動車・水道局・生物多様性センターなど、企業が

らは生協、イオン、京葉ガス、JT など、市からは環境関係課及びリサイクルプラザ体験講座グループの出展もあり、全部で34ブースが駅前という好条件もあって大勢の市民が参加されていました。

自然環境の恵みの少ない浦安市らしく「大切にしたい自然ブース」の北茨城市、下妻市、高崎市からは、野菜などの地元物産品も売られていて市民との交流がはかられていました。

会場の新浦安駅前広場の常設のステージでは、幼稚園から大学、企業の出演で1日中人を集めているなど、手作り感満載の市制施行35周年記念環境フェアでした。

（文責 横山清美）



# ナガエツルノゲイトウ駆除についての手賀沼と 印旛沼の情報交換

—美手連総会・講演会—

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 顧問 小倉久子

2016年6月11日に我孫子市親水広場・水の館にて、美しい手賀沼を愛する市民の連合会（美手連）の平成28年度総会及び講演会が開催されました。

美手連は平成7年に、「沼と共に生きる周辺地域の自然・生活環境のより良きあり方を学習し、美しい手賀沼によみがえらせる」ことを目的に、市民団体の連絡会として誕生した団体です。団体の紹介は環パだより96号（2014年3月31日発行）に載っていますのでご覧ください。

この日は、美手連にとって、ちょっとした記念すべき総会でした。なぜなら、親水広場と水の館が千葉県から我孫子市に移譲されて「我孫子市親水広場」になり、7月から始まる改修工事のために、研修室が使える最後になったからです。私も、昔のアオコいっぱい頃などを思い出しながら水の館から手賀沼を眺め、感慨深いものがありました。

## ◆総会

14団体、20名の出席で開催されました。

八鍬雅子会長挨拶は、ここ数年の美手連の「重要課題」であるナガエツルノゲイトウ対策について平成27年度の活動を概観し、今後も市民活動としてできることを実施し、行政と話し合いながら対策を進めていくことを表明しました。

来賓の千葉県水質保全課の森課長（手賀沼水環境協議会事務局長）は、平成27年度のCOD速報値は8.1mg/Lと横ばいが続いていること、手賀沼の浄化は行政だけではできないので、美手連はじめ市民の皆さんとともに進めていきたい、と挨拶なさいました。

議事は、提案された5つの議案がすべて全員一致で承認されました。

## ◆講演会

後半の講演会は、「どうする？特定外来生物（ナガエツルノゲイトウ）—いま手賀沼でできることは？ みんなで考えて、みんなでやっつけよう！—」というテーマで、手賀沼、印旛沼の活動報告という形で行いました。

### ①手賀沼からの報告（美手連 中野一宇さん）

手賀沼の形状、水質汚濁の歴史の丁寧な説明から始まり、現在、手賀沼流域のあちこちでナガエツルノゲイトウ（ナガエ）が異常繁茂している実

態と、ナガエの侵入経路についての調査結果が報告されました。

②桑納川におけるナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦（印旛沼流域水循環健全化会議事務局 松本光正さん）

八千代市を流れる桑納川で現在実施中の、市民団体・企業・大学・研究機関・土地改良区・水資源機構・行政が協働して行っているナガエ駆除活動の紹介がありました。最初に重機を使って大群落を駆除し、その後に毎月継続的に出てくる芽を摘み取ることにより、低密度を維持できる可能性が話されました。

③土地改良区の役割とナガエツルノゲイトウの堆肥化（水土里ネット印旛沼 高橋修さん）

土地改良区の紹介と、手賀沼と印旛沼が一体の事業であったことが裏目に出て、印旛沼流域のナガエが手賀沼流域に侵入してしまったことが話されました。また、堆肥にして資源として活用することを検討していることも紹介されました。

④印旛沼流域におけるナガエツルノゲイトウ分布状態（東邦大学地理学生態研究室 鈴木広美さん）

ナガエの桑納川流域の水田への侵入と農業用水の関係を、実際に流域を踏査して確認しました。その結果、（ナガエの群落がある）桑納川の水を揚水している水田にはナガエが確認されることが統計的に有意な差をもって証明されました。

4題の話題提供の後の総合討論では、両流域でナガエの繁茂状況や被害の可能性が異なるので、それぞれ状況にあった駆除方法を考えること、これからも情報交換を進めていくことを確認して閉会となりました。



水の館からの手賀沼



中野副会長

## 県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 34 —

おききました！ この人・この団体

## 利根川流域交流会の発足と活動内容

事務局 吉田 正彦



1) 利根川流域交流会の発足のきっかけは、平成22年10月に千葉県において「川での福祉、医療と教育」の第10回全国大会（写真参照）を開催した折、パネラーとして参加した筑後川流域連携倶楽部（筑紫次郎）の駄田井久留米大教授、吉野川（四国三郎）を代表する新町川を守る会の中村理事長から、「利根川（坂東太郎）を長男として日本三大暴れ川の兄弟縁組を行いたい」との提案があり、利根川の流域連携の組織化が必要となった。そこで、国土交通省国土総合技術研究所の環境部長であった故吉川勝秀日大教授の音頭で先の全国大会に参加したNPOや学識者等と平成23年10月に「利根川流域交流会」を発足。活動目的は、利根川流域における歴史・文化・産業等の情報交換を通して流域連携を育み、川と市民の新たな共生関係の構築を目指すこととなった。

2) 日本三大暴れ川、坂東太郎、筑紫次郎、四国三郎の縁組締結を平成24年9月30日に徳島市あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）にて徳島県知事、国土交通省四国地方整備局長、水機構吉野川局長、三大河川の各河川所長等の立ち合いの下で調印式を挙行。その模様は大手新聞及び地元紙に大きく掲載された。

3) 主な活動である流域交流イベントは、平成25年度より本格的。平成27年度までに6地域で実施。その内、年1回は、三大河川交流会を併催し、相互交流している。

## ①利根川下流セミナー（香取市）

平成25年9月20日 参加者35名。大正12年に完成し国の重要文化財に指定された横利根閘門視察と銚子港までのクルーズを体験。

## ②利根川に学ぶ 渡良瀬大会 in 板倉町（群馬県）と三大河川交流会

平成25年11月9、10日 参加者300名。渡良瀬遊水地に焦点をあて、治水と現状やかつての鉱毒問題、谷中村集団移転など複雑な要因が絡み合う背景の歴史的意義を考察。

## ③利根川に学ぶ「水辺のまちの活力ある地域づくり」in SAKAE（栄町）

平成26年8月23日 参加者150名。北総地域最大の古墳や武家屋敷等の貴重な遺産を有する利根川下流での昔と今を振り返り、新たな町づくりの視点と水害の歴史を考察。

## ④吾妻川・ハッ場ダムセミナーと三大河川交流会（群馬県）

平成26年11月6日 参加者62名。ハッ場ダム建設に関する経緯の中でその現状と意義について認識し、今後のまちづくりの課題や展望を考察。

## ⑤「首都圏のオアシス in 手賀沼」KASHIWA 大会と三大河川交流会（柏市）

平成27年10月30日 参加者250名（写真参照）。手賀沼は都市化の影響で汚濁が進み、現在も水質改善の途上にある。しかしながら、豊かな水面と緑に囲まれ自然は、都市のオアシス。この貴重な水辺における様々な取り組みと将来展望について議論。

## ⑥栃木市セミナー「巴波川が運んだ文化と市民の暮らし」

平成27年11月14日 参加者85名。城下町から巴波川の舟運を中心に北関東一帯の物資集散拠点に発展した蔵の町の歴史的背景を活かして巴波川に舟運を再生し、地域を活性させる事業を考察。



2010. 10. 08 全国大会 in ちば



2012. 09. 30 縁組



2015. 10. 30 首都圏のオアシス

# 運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを  
info@kanpachiba.com にお知らせください。  
(広報部)

## 6月運営委員会

日時 6月8日(水) 18:00~20:00

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・平成28年度地域環境保全功労者等 環境大臣表彰
- ・印旛沼流域環境・体験フェア市民企画部会開催(5/31)
- ・だより109号発送
- ・ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦(5/29)

### 【協議】

- ・エコメッセ2016in ちば出展
- ・環境こども会議ちば開催
- ・NPO法人設立準備会設置
- ・環境講座について
- ・だより110号
- ・総会議事録について
- ・新宿公民館からエコクッキングの相談
- ・その他

## 7月運営委員会

日時 7月13日(水) 18:00~20:40

場所 船橋市民活動センター

### 【報告】

- ・印旛沼流域環境・体験フェア市民企画部会開催
- ・ナガエツルノゲイトウ協働駆除作戦(7/12)
- ・千葉市公民館講座(1/31 新宿公民館)
- ・エコメッセ
- ・環境講座
- ・その他

### 【協議】

- ・エコメッセ2016in ちば出展内容
- ・環境こども会議ちば開催
- ・だより110号
- ・千葉県環境講座
- ・環境保全活動等の情報提供(ちば環境再生基金)
- ・その他

## お知らせ

### 第30回！ 清里ミーティング2016

環境教育の未来を考える！あなたの次の一歩は？

清里ミーティングは、参加者同士のネットワークの構築と、それぞれの環境教育活動を再確認し、理念や意識を共有することを目的とした環境教育全国ミーティングです。

【日時】11月5日(土)~7日(月) <2泊3日>

【会場】(公財)キープ協会 清泉寮  
山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(山梨県北杜市)

【参加費】一般：38,000円、  
JEEF会員：33,000円、学生：30,000円

【締切】10月22日(土) ※定員になり次第締切  
※ワークショップ等の企画申込みは各自ご確認ください。

【詳細】<http://www.jeef.or.jp/activities/kiyosato/>  
【主催事務局】(公社)日本環境教育フォーラム(JEEF)  
【現地事務局】(公財)キープ協会 環境教育事業部

### エコメッセ2016in ちば

~みつけよう私のCOOL CHOICE~

こどもから大人まで楽しめます。  
環境への気づき、体験、シンポジウムなど盛りだくさんです。

【日時】9月22日(木・祝) 10時~16時

【会場】幕張メッセ国際会議場

【参加費】無料

【主催】エコメッセちば実行委員会

【詳細】<http://www.ecomesse.com>

### 「東京湾大感謝祭2016」

官民が東京湾再生のために協働する唯一のお祭り。

海からみつめなおす21世紀のライフスタイル

【日時】10月21日(金)~23日(日)

10時~17時

※21日は、午後シンポジウムのみ

【会場】横浜赤レンガ倉庫及び周辺海上

【主催】東京湾大感謝祭実行委員会

【詳細】<http://tbsaisei.com/fes/>

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団  
業務部環境活動支援課 気付  
TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969  
Eメール：info@kanpachiba.com  
会費納入先：環境パートナーシップちば  
郵便振替口座 00160-9-401872

## <環境パートナーシップちば>

### 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)  
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		